

登山月報



JMSCA 登山月報 第684号 令和8年3月15日発行



「土庄港から望む皇踏山」香川県山岳・スポーツクライミング連盟 指導委員長 武川秀樹

8月11日 みんなで山を考えよう!

祝「山の日」

全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.684

ボルダージャパンカップ2026 (BJC2026) 開催報告	2
【SKIMO】第19回SKIMO日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会報告	4
医科学講習会2026	5
鳥取県大山 令和7年度 氷雪技術研修会、コーチ2養成講習会報告	6
Enjoy Climbing	8
JMSCA 認定自然保護指導員登録について	9
令和7年度 全国理事長会議概要	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば	12

ボルダージャパンカップ2026 (BJC2026) 開催報告



スポーツクライミング・ボルダー種目の日本一を決める「ボルダージャパンカップ2026 (BJC2026)」を、今年も東京・駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場にて開催した。昨年に引き続き決勝チケットは完売し、多くの観客が来場して会場は大きな熱気に包まれた。

【開催概要】

ボルダージャパンカップ2026 (BJC2026)

期 日 2026年1月31日(土) ~ 2月1日(日)

会 場 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

参加選手数 男子51名、女子51名

※ SCJT2025 JMSCA 優先出場選手(ボルダー)および SCJT2025 ボルダーランキング上位者

来場者数 予選 約1,000名、準決勝 約1,200名、
決勝 約1,300名

※招待者等を含む ※決勝チケットは完売

【概況】

昨年に引き続き、駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場にて開催した。昨年は発売後すぐに決勝チケットが完売したことを受け、本大会では客席を増設し、より多くのクライミングファンが現地観戦できる環境を整備した。

しかしながら、決勝チケットは販売開始から数日で完売し、結果として過去最高の観客動員数を記録した。本大会に対する関心と需要の高さが改めて示される結果となった。

【競技】

結果<男子>

順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	檜崎 明智	日新火災	84.9 pt
2	檜崎 智亜	無所属	69.3 pt
3	安楽 宙斗	JSOL	59.9 pt

結果<女子>

順位	氏名	所属	成績(決勝)
1	伊藤ふたば	デンソー岩手	84.8 pt
2	野中 生萌	無所属	84.5 pt
3	関川 愛音	八戸学院光星高等学校	69.6 pt



男子優勝・檜崎 明智



女子優勝・伊藤ふたば



男子入賞選手



女子入賞選手



決勝・観客席の様子

男女ともに決勝の最終課題まで優勝の行方が分からない白熱した展開となり、会場は大きな盛り上がりを見せた。

男子優勝の榎崎明智は本大会2度目の優勝。複数回優勝は過去に藤井快のみであり、記録的な勝利となった。女子優勝の伊藤ふたばは、3年ぶり4度目の優勝を果たした。

【運営】

取り組みと成果 #1 YouTube 配信の品質向上(予選)

予選のYouTube配信について、去年は固定カメラによる配信であったが、本大会では個々の選手の登りを追従する映像制作を実現した。その結果、予選のピーク視聴者数は昨年比1.5倍、平均視聴者数は1.8倍を記録し、来場が叶わないクライミングファンにも会場の熱気を届けることができた。

取り組みと成果 #2 オリジナルグッズ販売の拡充

オリジナルグッズは毎年コンセプトを設定して新規デザインを展開している。本大会ではラインナップを

拡充するとともに、新たにカプセルトイを導入した。どの商品が当たるかわからない体験型の販売施策により、来場者に新たな楽しみを提供することができた。

【さいごに】

昨年引き続き、多くのスポーツクライミングファンに支えられBJCを開催することができました。引き続きすべてのステークホルダーにとって満足度の高い大会が開催できるよう努めてまいります。

大会開催にあたりご尽力いただいた全ての関係者の皆様に、改めてお礼申し上げます。

ボルダー・ジャパンカップ2026 実行委員長
百瀬 恭平



新たに導入したカプセルトイ



大会スタッフ

SKIMO

第19回SKIMO日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会報告

2026年2月13日から15日の3日間、富山県黒部市の宇奈月温泉スキー場において、「第19回SKIMO日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会」が開催された。

本大会は、2026年に開催されるミラノ・コルティナ冬季オリンピックにおいて、SKIMO(スキーマウンテニアリング)が新規追加種目として正式採用されたことを受け、国内最高峰の大会として大きな注目を集める中での開催となった。全国各地からトップ選手が集結し、日本一の座を懸けて熱戦を繰り広げた。

大会初日の14日には、オリンピック追加種目であるスプリントが実施された。当日は晴天に恵まれたものの、朝は放射冷却の影響で冷え込みが厳しく、雪面は非常に硬い状態となった。安全面を考慮し、競技開始は予定より30分遅れでスタート。その後は気温の上昇とともに雪質が緩み、予選から決勝へと進むにつれてコンディションは大きく変化した。選手たちは、急峻な登坂、スキー担ぎ、そしてテクニカルな滑降を含む周回コースで、技術と瞬発力、そして判断力を競い合った。

シニア男子の部を制したのは島徳太郎。ワールドカップでも実績を重ねる日本のエースが、その実力を遺憾なく発揮した。予選から安定した滑りで



スプリントレース ダイヤモンドを登行する選手たち



急な斜面をブーツで歩行する選手たち



フラワーセレモニーユース女子



フラワーセレモニーユース男子

勝ち上がり、決勝では登坂で主導権を握ると、素早いトランジションと安定感ある滑降でリードを拡大。後続に26秒差をつける圧巻のレース運びで優勝を飾った。各カテゴリーでも実力伯仲のレースが展開され、ユース世代の躍進も目立った。オリンピック正式種

POS. RANK	Bib	Name	Year of Birth	Qualifs	Semi Final		Final
					1	2	
スプリント シニア男子結果							
Final							
1	1	島 徳太郎	03/06/1999	03:14.16(1)	03:07.89(1)		02:39.47(1)
2	2	平林 安里	14/05/1997	03:21.21(3)		03:15.77(1)	03:05.88(2)
3	5	滝澤 漣	21/09/2005	03:20.31(2)		03:23.02(2)	03:13.26(3)
4	4	萩原 悠己	11/07/2001	04:03.42(4)	03:31.01(2)		03:15.24(4)
5	3	岡 秀行	28/09/1982	04:22.20(5)	03:52.96(3)		03:36.82(5)
6	14	國吉 正紀	11/10/1972	04:43.01(6)		04:32.71(3)	04:43.49(6)

スプリント シニア女子結果							
Final							
1	30	上田 絢加	10/02/1993	03:45.71(3)			03:16.61(1)
2	33	滝澤 空良	10/09/1997	03:36.68(1)			03:27.53(2)
3	31	田中 友理恵	06/01/1989	04:03.82(4)			03:31.52(3)
4	32	臼井 夏海	05/08/1998	03:44.31(2)			03:32.18(4)
5	34	林 楓	09/11/2000	04:12.40(5)			04:02.77(5)
6	35	池田 美貴	26/02/1986	04:32.75(6)			04:30.32(6)

スプリント ジュニア男子結果							
Final							
1	50	石川 太郎	22/05/2007	03:52.08(1)			03:20.80(1)

スプリント ユース男子結果							
Final							
1	61	行廣 大志	09/03/2008	04:12.44(4)			03:37.46(1)
2	60	笹川 勇太	26/05/2009	03:52.62(2)			03:37.72(2)
3	64	山田 朝陽	06/02/2010	04:10.82(3)			03:50.42(3)
4	63	藤井 駿杜	01/03/2011	03:50.49(1)			03:51.07(4)
5	62	後閑 梓正	02/02/2008	04:39.17(6)			04:05.68(5)
6	65	レイ アイザック	13/01/2008	04:29.28(5)			04:35.40(6)

スプリント ユース女子結果							
Final							
1	74	田口 夏稀	17/06/2013	05:12.08(1)			04:29.23(1)
2	70	田邊 美藍	19/06/2010	05:25.15(2)			05:08.39(2)
3	71	吉村 百叶	09/02/2013	05:34.05(3)			05:14.33(3)
4	72	井上 夏都海	16/07/2008	05:52.33(4)			05:37.54(4)
5	73	別府 映奈	08/12/2011	06:18.68(5)			05:38.49(5)
6	75	真正 光	08/01/2016	12:00.10(6)			09:10.29(6)



温泉街のスタート地点に集まる選手たち



急な斜面を登る選手たち

目化を背景に、国内でも競技レベルは着実に向上しており、本大会は日本SKIMO界の今を映し出し、未来への可能性を感じさせる大会となった。変化の激しいコンディションのなかで繰り広げられたスプリント競技。瞬時の判断と爆発的なパワーが求められるこの種目は、観客を大いに魅了し、国内最高峰大会にふさわしい熱戦となった。

大会2日目の15日、インディヴィジュアル種目が実施された。インディヴィジュアルは、ゲレンデ内外の自然地形を活用して行われる長距離種目であり、登坂と滑降を複数回繰り返すSKIMOの本質を体現する花形種目である。当日は前日より雪が締まり、比較的安定したコンディションとなったが、荒れた斜面での滑走や急峻な登坂区間では高い技術と体力が試された。選手たちは宇奈月の雄大な自然を舞台に、それぞれの戦略でレースを展開した。

シニア男子は島徳太郎が優勝。安定した登坂力と確実な滑走でレースをリードし、2位の宮津旭に8分差をつける力走を見せた。3位には平林安里が入った。

シニア女子は上田絢加が優勝。2位田中友理恵、3位滝澤空良と続き、白熱したレースとなった。

SKIMO 体験会

大会期間中、SKIMO体験会を開催した。日本選手権という国内最高峰の舞台とあわせて実施することで、競技の普及と次世代育成を目的とした取り組みである。当日は初心者やユース世代、保護者など幅広い層が参加し、専用用具の説明、安全講習、シール登行体験、ミニコース滑走などを行った。

参加者からは「登るスキーは初めてで新鮮だった」「想像以上に体力を使うが楽しい」「自然の中で挑戦する魅力を感じた」といった声が聞かれた。選手や指導者が直接アドバイスをを行い、日本選手権出場選手の滑りを間近で見る機会にもなったことで、競技への理解と関心が一

層深まった。体験会を通じて、SKIMOが競技スポーツであると同時に、生涯スポーツとしても親しめる魅力を持つことを発信することができた。今後も継続的な普及活動を行い、地域に根ざした競技振興とユース世代の発掘・育成につなげていきたい。

SKIMOはオリンピック正式種目化を契機に、国内外で急速に発展しており、今後さらなる普及と競技レベルの向上が期待されている。本大会は、トップ選手の強化のみならず、次世代育成や競技普及、さらには地域活性化の観点からも大きな意義を持つ大会となった。開催にあたり、多大なるご支援を賜った協賛企業各社の皆様には、心より御礼申し上げます。また、関係機関、ボランティアの皆様、そして開催地である黒部市、宇奈月温泉地域の皆様のご理解とご尽力により安全かつ円滑な大会運営が実現し、成功裏に終了することができた。黒部の豊かな自然環境は、選手たちにとって挑戦の舞台であると同時に、成長の場でもある。本大会で得られた成果と課題を踏まえ、今後はより魅力ある大会運営の確立と、選手強化体制のさらなる充実を図っていきたい。宇奈月から発信された熱戦と感動は、日本のSKIMOの未来へと確実に繋がっている。本大会で積み重ねられた経験は、将来の国際舞台、そしてオリンピックへと続く大きな一歩となる。

(SKIMO委員 山田 宏)



SKIMOを体験するユース世代、保護者

医科学講習会 2026

2/7(土)に医科学講習会2026を池袋のBL会議室にて開催しました。コロナ禍において対面での講習会が遠のいておりましたが、今回は対面+オンライン配信でのハイブリッド開催としました。今回のテーマは栄養+PNFストレッチの二本立てです。

昨今ではREDs(スポーツにおける相対的エネルギー不足)が注目されています。持久系、審美系、階級制スポーツでは以前から知られている「痩せ過ぎ問題」に関することです。クライミングにおいて、痩せ過ぎは瞬間的にパフォーマンスがあがることもありますが、中期的には怪我のしやすさ、気力の低下からトレーニング効率の低下に繋がります。長期的にも無月経や骨粗鬆症など直接的に健康を害することが明らかになっています。それらから選手の健康を守るために始まったのが、「REDsヘルススクリーニング」です。講習会の始まりにはJMSCAのメディカルオフィサーである産婦人科医、内田志穂先生にREDsに関してご講演いただきました。このREDsへの対策は日本のスポーツクライミング業界が他に先駆けてルール設計、対応を始めました。そしてIFSCは基準を満たさない場合、出場許可が下りないこともありうる厳しいルールを課したのです。クライミング界発のこのルールが他競技でも選手の健康を守る取り組みになっていくことを願っています。

REDs講義に続く形で現役コンペティターであり、栄養士資格を持ち、栄養のスペシャリストでもある小武芽生選手に「クライマーのための栄養学」についてお話いただきました。専門的な栄養の講義からサプリメントの使い方、タイミングまでびっちり講義。トレーニング後に筋肉の合成を増加させるたんぱく質の閾値(最低値)20gという数字は是非覚えておきましょう。またトレーニング、コンペ前後のご自身の具体的な食事の方法までご講演いただき、栄養×コンペの小武選手にしかできない大変貴重な講義でした。

後半は帝京平成大学、理学療法学科の教授である加藤勝行先生による講義+実技でした。加藤先生は平山ユージをはじめとして、現役のコンペティターまで、日本のトップクライマーの身体を診てきたスペシャリストです。加藤先生が施すPNFストレッチ法とは、Proprioceptive Neuromuscular Facilitation(固有受容性神経筋促通法)の略で人の感覚受容器から筋、神経に作用し、刺激にたいする反応を高める方法です。特殊なストレッチとともにらせん的、対角線的な運動パターンを利用することによって効率的な動きの学習に



会議室のテーブルを用いてPNFストレッチ

繋がっていきます。その結果、反応時間の短縮、タイミング動作の改善、反復性・敏捷性・筋力の向上、課題応答(方略)が高まるなどの効果が得られるようです。なに言っているかわからないかもしれませんが、その通り!この講義は非常に高度な内容でした。解剖の基礎知識がある私でも90分間で理解仕切れるものではありませんでしたが、そこに我々の知らない動作学の高度な世界が広がっており、自分もまだ向上できる方法があるかもしれないと思わせてくれました。すぐ使えるチップスとしては、仮に届かなくても、ホールドは最後までしっかりと目で追うこと、などがありました。平山ユージ氏もそのあと踏むホールドを繰り返しくよく視ておくだけでも、その後の踏み感が変わってくると話していたことを思い出します。眼からの入力刺激が神経、筋収縮に大きな影響を与えていることがうかがえる一エピソードです。他にもクライマーに特に必要なストレッチの紹介など内容は多岐にわたり、時間が足りないほどでした。今回は久しぶりの講習会で改善点も見つかったので、来年度以降も内容をブラッシュアップしながら、よりクオリティの高い講義をお届けしたいと思っていますので、もし興味を持った方はぜひご参加いただきたく思います。

SC医科学委員長 竹田 遼
(救急科専門医、国際山岳医、スポーツドクター)



コロナを経て対面での機会が減っているので貴重なスタッフの交流会

鳥取県大山 令和7年度 冰雪技術研修会、コーチ2養成講習会報告

令和8年1月31日(土)～2月1日(日)

鳥取県大山において冰雪技術研修会およびコーチ2養成講習会が大山自然歴史館および大山南光河原にて開催された。

今回は研修4名、コーチ2養成講習9名、主任検定2名、講師2名、鳥取県スタッフ3名の計20名での開催となった。その中でも京都府からは10名の参加があり、京都が熱い講習会でした。

今年の大山は1月下旬、日本海で降雪があり登山口すぐに膝上あたりまでの積雪があり、講習には十分な積雪で、また両日とも天候に恵まれ、充実した講習が行われたものと思います。鳥取県山岳・スポーツクライミング協会の皆様には事前準備からご尽力いただきまして誠にありがとうございました。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(記：指導委員会 野村善弥)

受講生感想

■冰雪技術研修会を受講して

宮崎県山岳・スポーツクライミング連盟 宮久保 悟

1月31日から2月1日の2日間、大山で開催された「冰雪技術研修会」を受講しました。当日の自己紹介でも言いましたが、私の住む宮崎市は滅多に雪が降らず、わずかな降雪でも夕方のニュースになるほどです。そのような環境ゆえに本格的な冬山登山を行う山岳会はなく、技術を学ぶ機会に恵まれないため、今回、思い切って申し込みました。

当日は「コーチ2指導員養成講習」及び「A級主任検定員養成講習」も並行して実施されており、検定に臨む方々の真剣な面持ちに触れ、程よい緊張感を持って研修を受けることができました。

私が参加した研修班は、堤講師の御指導の下、受講者4名に鳥取県のスタッフ 前田様が加わった体制でした。講習では、ブッシュや柴(小枝)、土嚢袋、スノー



バーなどを用いたアンカー作りやスタンディングアックスビレイ、滑落停止を学びましたが、中でも印象的だったのは、書籍やネット動画には決して載っていない「めざし」や「夕張メロン」といった独自の「技」を伝授いただけたことです。こうした現場の生きた知識に触れられることこそ、対面研修に参加する最大の意義だと感じました。また、柴を結束して作るアンカーは「太い枝ほど強固」と考えがちですが、実は「細い枝の方が適している」というお話は、目から鱗が落ちる学びでした。

さらに、技術の習得だけで終わらないのが本研修の醍醐味でした。縦と横それぞれに雪に埋めたスノーバーを5人がかりで引っ張って強度を比較したり、スノーボラードのサイズを徐々に小さくしながら、どこまで5人の引っ張り荷重に耐えられるか実験したりして、その強度を体感的に確認することができました。このように理屈を身体で理解させてくれる指導は、正に“生きた研修”であり、大変勉強になりました。

加えて、慣れから「これくらいでいいだろう」とおぼろげになっていた基本動作について、堤講師から厳しくも的確な御指摘をいただき、ハッとさせられる場面がありました。冬山では些細なミスや過ちが命取りになることを熟知されている講師だからこそその言葉に、技術以前に大切な「冬山に向き合う気構え」を再認識しました。最後に、文中で触れた「めざし」や「夕張メロン」の正体が気になる方は、ぜひ来年の研修を受講してみてください。

■コーチ2を受講して

京都府山岳連盟 山くらぶ 森本 雪恵

今回は参加させていただきありがとうございました。たくさんの方々と交流が出来、良い刺激になりました。夕食の後のおさらい会は、同じ検定を受ける者同士で教えたり教わったりと、とても有意義な時間となりました。人に伝えると言う事の難しさもわかりました。また、私の所属する山くらぶの活動を他の方にも褒めていただけた事が大変嬉しかったです。山くらぶの子供達が、数年後のいつか、この会場に1人でもいてくれたら嬉しいなと思いました。

Enjoy Climbing!

ロンシャン遠征 2025 の記録 連載①

龍山登山隊の隊長 上野はるか

2024年の正月明け、2週間の穂高～槍の継続登攀を終えて下山した私は、5月に予定していたアラスカ遠征に向けて、燃えていた。ところが、下山後に私の妊娠が発覚。私の山人生は終わったと思った。時間を巻き戻したいと思った。でも、妊婦にあるまじき活動を続ける私の中でも、順調に成長を続けて私の身体を内側から揺らす胎児に、観念して、2024年は私の身体を開け渡した。その代わりに、2025年は山のパートナーであり父親である夫が、その身を捧げることを約束した。

このような経緯から、妊婦の私は2025年秋の遠征に向けた準備を進めていった。アラスカはどちらかという夫の嗜好だったので、自分がゼロから遠征を組み立てるのであれば一番自分の好きなエリアにしようと思い、中国に決めた。

私が初めて中国の山を訪れたのは2016年の夏で、当時妹が雲南省の大学に通っていたのがきっかけだ。登った5396mの哈巴雪山は難しい山ではなかったが、日本人の想像する「中国人」とは違う中国内陸部の少数民族の人々の家に泊まったり、食事をしたり、ラマを一頭借りて登山装備をつけて山々を移動したり、楽しい体験だった。

帰国後、中国の内陸部に興味を持つようになった私は「梅里雪山」という本を読んだ。1991年に日中合同の登山隊が6740mの梅里雪山に初登頂した後に全員雪崩遭難した実話を書いた本なのだが、登山の様子よりも梅里雪山を聖山として敬う山麓の人々の様子が印象に残っている。その山を聖山と崇める人々からすると、雪崩事故は山の祟りであり、山頂を踏むということは親の頭を踏まれるのと同じなのだを書いてあった。

登山禁止となっている梅里雪山は登れないとしても、山麓を回る巡礼の道があるとその本に書かれていて、2018年には梅里雪山の麓をトレッキングしに行った。そこで、朝日に染まっていく梅里雪山を前にして、その神聖さを肌で感じたし、言葉に表せない美しさを見た。梅里雪山は複数のピークを持つ山脈で、それぞれのピークに王様、女王、兵隊のような名前も付いていて、そういう全体的なシルエットも格好良かった。

帰国後は中国内陸部で登れる(宗教上の理由をクリアしている)、梅里雪山のような美しい山脈を調べていくうちに、四姑娘山に出会った。四姑娘山は地球の歩き方に載っているくらい有名な山だが、4つの峰のうち2つはトレッキングでも登れるらしい。そこで2020年2月に2つのピークに登るつもりで登山起点となる日降を訪れたが、コロナ



Longshan 6684m © Wuri Wusa (烏里烏沙)

の大流行が始まり、国立公園が閉鎖され、政府のバスで成都に連れ戻されたのだった。

2020年に四姑娘山を見た時から、4峰の全山縦走計画を考えていた。それは誰もやっていないことだったし、4峰と3峰のコルを起点に実行すれば実現可能性も低くはないと思った。このような登山内容から、遠征チームの人数は2、3人でなくても良いと考えた。2022年のインドヒマラヤ遠征では、パートナーである夫が標高6000mの最終キャンプで高山病になり撤退した経験があり、それがお互いにとってとても辛いことだと私は知っていた。3人パーティで計画していたが、遠征前に1人が怪我して2人になったという先輩の話も聞くし、「どうしても1人の都合がつかなくなったから行かないか?」と遠征に誘われたこともあった。1ヶ月の海外遠征を1年以上前から計画して実行していく過程では、このような可能性も十分にあると思っていた。そこで、4人パーティくらいがちょうど良いと考え、長年一緒に山に登ってきた同世代の葉狩(現姓 伊佐見)、山岳会の気の合う仲間の鈴木、北海道在住だが女性で一番強いと私が見込んだ桑原を誘った。

2024年の年末年始、私以外の3人で八海山のハッ峰へ。春には初めて4人で利尻南稜に登った。4人で2組に分かれてのコンテ、4人で2本のロープで登るピッチクライミングなど、本番で想定されるロープワークを確認した。

ところが、その春になって「四姑娘山での幕営禁止」という情報が入り、その真偽を各方面へ確かめたが、どうやら本場で、昨年からの自然保護という名目で四姑娘山を取り巻く3つの谷周辺での幕営が禁止されているようだ。一時は絶望し、踏み出した足の着地場所を探していたが、次の目的地は四姑娘山のさらに西にあるミニヤ コンカ山群に決めた。3度にわたる四川省・雲南省での登山においてミニヤ コンカは訪れたことがないまでもその存在は意識していた山域だった。

そして、最高峰のミニヤ コンカ(7556m)の南に位置するLongshan(6684m)へ照準を合わせた。中村保氏の「East of the Himalaya Mountain Peak Maps」に掲載されている朝日に燃えるピークの写真(撮影 烏里烏沙氏)に、かつてその美しさに言葉を失った梅里雪山の神々しいモルゲンロートが思い出されたからだ。調べてみると、Longshan

は未踏峰だった。

四姑娘山の断念から2週間ほどでlongshanと出会えたのは、本当に幸運だった。私はこの遠征の発起人としてみんなの情熱を絶やさず燃やし続ける(何しろ、私以外は中国を訪れたことがないので、モチベーションに差があるのは当然)任務があると思っているので、四姑娘山がダメだとはっきりして、正直かなり焦った。このまま遠征が頓挫するかもしれないと思った。そこで改めて本を見返したり、新たに高額な写真集を買ったりして調べるうちに、そのたいして大きくもないモルゲンロートの写真が、私を見て！と言ってきたのだった。



利尻入山前 鷺泊港にて

JMSCA認定自然保護指導員登録について

JMSCAでは、自然保護憲章を尊重し、登山者の立場から山の自然環境を次世代へ引き継いでいくことを目的とし、その保全と保護を推進するために、加盟団体からの推薦を受けて自然保護指導員を認定する制度を設けています。昨年11月現在で約900名が登録しています。

2025年4月の自然保護指導員規程および同取扱細則の改定、さらにJMSCAフレンドの運用開始により、登録条件や申請方法等に変更があります。これまで、『山岳自然の集い』や『出前講座』等でも説明を行ってきましたが、ここで改めて概要を整理します。

1 自然保護指導員規程の改定

i 改正の背景

JMSCA自然保護委員会は、かねてより、自然保護指導員の登録プロセスや登録後の研修制度、更新条件が都道府県毎に大きく異なっていたため、全国で統一した制度設計と研修の充実を図り、指導員がより活躍できる環境づくりを目指してきました。

また、2022年度よりJSC組織基盤強化支援事業の助成を受けて開発が始まった「JMSCAフレンド」には、当初から自然保護指導員の登録機能を組み込み、その業務効率化とDX化が計画されていました。そのため、2023年度からは全国の自然保護委員会を通じて、DX化に必要な指導員のメールアドレス収集が進められました。

ii 規約改正の要点

1. 資格取得要件にあった「自然観察等に造詣が深い」という高いハードルを緩和し、興味・関心のある方が取得しやすい制度にする。

2. 資格取得時には新規指導員講習会への参加を必須とし、基礎知識を確実に身につける機会を提供する。
3. JMSCAフレンドを活用しスキルアップのための研修会を、所属岳連・連盟に限らず全国どこでも受講できるような研修制度を構築する。
4. 資格更新時には、過去5年間の山岳環境保護・保全活動歴の提出を求め、活動の活性化を促す。

iii 現状

規程類は理事会の承認を経て、2025年4月に改正されました。資格取得の門戸を広げ、全国どこでも研修を受講できる制度としたことで、研修の充実が少しずつ成果を見せています。また講習会の教本などに活用頂きたい「自然保護指導員の手引き改訂版」およびそのガイダンス版もJMSCAのWEBに公開済みです。

一方JMSCAフレンドは一時的に運用を中断されましたが、その後全ての自然保護指導員の登録証デジタル化の準備を終え、更に26年度新規指導員登録証はデジタル版に一本化するなど、DX化を順次進めています。



山形でのJMSCAによる新規指導員講習会



活動の際には腕章の装着を!!



丹沢での植樹活動



近自然工法による登山道整備

2 自然保護指導員登録（新規・更新）の流れ

i 自然保護指導員の資格（規程2条）

- 日本スポーツ協会公認のスポーツ指導者（アルパインクライミング）資格を保有しているか、または
- 自然環境保護等に関心をもち、それに必要な活動ができる者。また、その活動に付随する研修に参加し、その活動における指導及び啓発活動ができる者

ii 自然保護指導員の新規登録（細則2条）

- 所属岳連等、9つのブロックまたはJMSCA主催の講習会を少なくとも1回受講後、所属岳連に資格取得を申請

iii 資格認定登録期間（規程4条、細則8条）

- 有効期間は5年間（4月1日から起算し、翌年の3月31日までを1年とする）
- 新規・更新ともに年度途中で登録した場合でも、有効期間はその年度の4月1日から起算する

iv 自然保護指導員の更新登録（規程5条、細則6条）

- 年1回程度の自然環境保護等の活動参加が必須
- 更新登録申請には、過去5年間の活動報告書を添えて所属岳連等へ提出

v 資格取得までの流れ（細則3～5条）

- 加盟団体の長は、指導員に推薦する者について指定の登録申請書に必要事項を記載し、登録料を添えてJMSCAに提出する
- 新規登録は常務理事会の承認を経て認定される
- 年齢年限はなし

vi 申請の時期（細則8条）

- 新規については3月31日および9月30日がメ切
- 更新の場合は更新年の3月31日まで

vii 登録料（細則9条、10条）

- 認定登録料 4,000円、更新登録料 2,000円

viii 登録通知・連絡（細則4条）

- JMSCAでの認定が完了すると、加盟団体へ通知さ

れる

- 登録後は各自マイページにログインしてデジタル登録証を表示（指導員本人への登録完了通知方法については現在協議中）
- 新規指導員に対しては腕章がJMSCAより郵送される

ix 更新辞退

- 加盟団体の長は、更新を行わず資格を終了する者について、「登録辞退報告書」を提出する

◎申請書類等の様式等

- 認定登録・登録更新申請、辞退届の様式

<https://www.jma-sangaku.or.jp/sangaku/environment/instructor/>

にアクセスし、◆ドキュメントダウンロードから選択

- 登録料送金先口座（郵便振替口座）

口座記号・口座番号 00110-5-546693

加入者名

公社) 日本山岳協会・スポーツクライミング協会

- 送金時のご注意

通信欄に自然保護指導員認定登録料内訳を記載のこと。

例：認定登録 4000円×○名、更新登録 2000円×○名

(JMSCA 自然保護委員会 委員長 小高令子)

訂正

登山月報683号11頁、山岳自然の集い2025報告中、開催会場を「埼玉県民活動総合センター」とありますが、正しくは「埼玉県立小川げんきプラザ」でした。訂正します。

○日時 令和8年2月8日(日)
10:00～16:10
○会場 Zoomと対面(Japan Sport Olympic Square 3F 第2会議室)によるハイブリッド会議

1. 開 会

(1) 町田会長挨拶

JMSCAは昭和30年の発足時、一つの団体ではなしえないことを行うために設立していると聞いています。JMSCAは皆さんから独立しているとみられているようだが、もともとは47の都道府県の連盟が集まってできたものです。本日は、組織のあり方の意義を確認し、将来に向け進むべき方向を皆さんと議論のうえ明らかにし、思いを共有する場としたいと思います。

(2) 出席者確認

出席者(役員、委員長)

町田会長、廣川副会長、畑中副会長、望月専務理事、赤尾事務局長、小田部常務理事、吉田・中橋・石田・武田(午後から)・原・蛭田・野村・古賀・前田・小高・栗田・中島・奥井・藤江・西原理事 以上21名
古屋・佐久間監事 以上2名
百瀬・水村・竹田・角田・松本・佐藤委員長 以上6名
欠席役員:石井・星・下村・安井・平田理事 以上5名

欠席委員長:青山・服巻・岩崎・奈良・倉橋・羽鎌田・杉本・北原委員長 以上8名

出席者(都道府県理事長(含代理)、高体連登山専門部)

山納秀俊(北海道)、川端満(青森)、遠藤敏英(岩手)、大槻聡(宮城)、浦山沢樹(秋田)、渡辺敏夫(福島)、西内博(茨城)、芳賀真治(栃木)、佐藤光由(群馬)、天野賢一(埼玉)、関研一(千葉)、賀来素明(東京)、伊藤靖雄(神奈川)、辻敏夫(山梨)、大場勲(新潟)、中島俊哉(長野)、金川千尋(富山)、米田正明(石川)、榊田靖憲(福井)、木ノ内高嘉(静岡)、北村憲彦、栗木洋明(愛知)、草川明(三重)、水谷嘉宏、加藤克行(岐阜)、片岡幸一(滋賀)、加藤宗利(京都)、石田英行(大阪)役員、難波悌次郎(兵庫)、前田善彦(奈良)役員※、白子欽也(和歌山)、渡辺公二(鳥取)、大垣隆(島根)、山崎裕品(岡山)、豊田和司(広島)、鹿野慶行(山口)、明上邦彦(香川)、椎野彰浩、(徳島)、武田豊明(愛媛)役員、福永幹郎(高知)、武末良樹(佐賀)、前川文雄(長崎)、松井清明(熊本)、石川明徳(大分)、河野智也(宮崎)、井原広茂(鹿児島)、大宜見朝太(沖縄) 以上45名(他2名オブザーバー)
欠席理事長:佐藤和典(山形)、山上司(福岡)、石田康治(高体連) 以上3名

会長が議長になる。

ホストは望月専務理事が務める。

3. 議 事

(1) 今回会議の趣旨及び進行にあたっての共通認識

望月専務理事が、本会議はJMSCAとPFは対等の立場で意思疎通を図ることを目的に実施することを示し、続いて総務管理部門に充てられる財源は少なく、PFと協調していく必要があることなどを説明した。特に質問はなかった。

(2) JMSCA財務状況等に関する報告

望月専務理事が、次の①から④までを説明した。

① JMSCA財務状況の概要

正味財産残高が十分でないで、総予算のうち約20%を借入しなければ運営できない厳しい状況が続いていることを報告。

② 決算推移と財政再建計画

平成30年度に2億円あった協賛金は1.5億円以下になりつつあるが、固定費は簡単に減らせず赤字になりやすい体質になっていることを報告。

③ 令和7年度事業報告・決算見通し

各種の手だてをしているが、収支は若干の赤字になることも想定されていることを報告。

④ 令和8年度事業計画・収支予算の素案

令和8年度も協賛金の減少が見込まれ(令和6年度からだ1600万円減)その対応策として、固定費・管理費(給与や入居費など)の削減、SC競技会経費減と収入増、SC強化費は補助金と選手参加料で対応し、スポンサー獲得活動の強化などを実施していることを説明。それを踏まえ、少年少女登山教室補助金と共済会交付金事業の一本化、選手登録や事務処理を含めた共済会還付金の見直し等についてお願いしたいと伝えた後、次の発言があった。

ア) 岳連を通さず登録した選手や各岳連の個人会員の位置づけが曖昧で検討が必要と思える。その上で将来的に若い人を増やすための投資的事業をどうするか事務作業を含めて整理すべきと思う。(愛知県山岳SC協会)

イ) 選手登録において無所属選手を残しておくのはいかがなものか。ルールを明確にし、所属選手は全てPFに属するようにするとかの考え方はできないか。(茨城県山岳連盟)

(3) 2026~2030年度中長期計画の策定について

望月専務理事が、現在の進行状況と4月の理事会で承認をめざしていることを説明。さらに町田会長が、現状のビジョン、ミッション、バリューを検討することが重要で、JMSCAの存在意義と今後の方向性について、特に登山、スポーツクライミング、SKIMOの3つの分野に焦点を当てて明確にしていきたいと問いかけた。その後、次の複数の岳連から次の発言があった。

ア) SKIMO体験教室を実施し、普及に有効と認識しているが、利益を上げるところまでいっていない。国スロボロック大

会を実施した際に赤字分を岳連で負担した。汗を流すことはやるが費用負担には疑問を感じる。(富山県山岳連盟)

イ) SC競技大会の収入は、(JMSCAからバックされる)選手登録費以外に参加費しかなく、PFが競技団体として成り立っていけない。それが選手育成にも影響してくる。今後も継続して事業を成り立たせる方策を全国的に考える必要があるのではないか。都道府県で費用のばらつきもあり、どのようにして事業として成り立たせていくか、議論する場があったほうがよい。(茨城県山岳連盟)

(4) 「ANY TEAM」アプリを活用したチーム活動促進について

小田部常務理事が、KDDI(株)と(株)運動通信社が開発したスポーツチームの活動を支援するANYTEAMアプリについて説明。協賛金の代わりにJMSCAは150チームの組成が目標となっている。組成すれば1チームに10,000円交付の特典があるので、3月末日までに各都道府県岳連・協会で積極的なチーム組成をお願いした。

(5) JMSCA組織管理運営規程の改正について

望月専務理事が、全面改訂した組織管理運営規程について報告。委員会等を4つの専門部(総務企画部、登山部、スポーツライミング部、マーケティング部)に整理し、別表に集約して記載するなど、組織の実態に沿ったわかりやすい規程にしたことを説明した。

(6) JMSCAフレンドの運用状況について

奥井理事が、JMSCAフレンドは会員向けのポータルサイトとして、講習会や検定会の検索から参加申込、参加費の決済までをワンストップで行える機能を目指していること、その上で具体的に自然保護指導員の資格証をデジタル化する取り組みを進めていることなどを報告した。

(7) 登山部・日山協山岳共済会について

廣川副会長が、登山部の現状を紹介しつつ、安全登山のため都道府県ごとに山のグレーディング導入の提案、日山協山岳共済会の加入促進と登山部事業との連携方針の提示、また、共済会の加入促進キャンペーンについて説明した。

(8) 事前質問事項の回答

① JMSCAの中長期的なキャッシュフローの安定化について(和歌山県山岳連盟)

今年度新たに政府系金融機関から4,000万円の融資を受けキャッシュフローは昨年比で安定しているが、収支については依然厳しい状況であると回答。また、関連で借入れによる利払い状況の質問があり、令和6年度には約130万円の利払いがあったことを報告した。

② 登山行動におけるクマ問題への対応について(和歌山県山岳連盟)

各種事例を紹介しつつ、JMSCAとして関係委員会が中心となり各都道府県連盟・

- 協会とも連携し、情報をとりまとめ共有し、広く情報発信を行なっていくと回答。
- ③次期5か年計画にSCが独立採算の組織に成る筋道があるかについて(埼玉県山岳SC協会)
登山部、SC部両部門によって総務管理費を分担していくことが経済的であると言え、完全独立採算へは、現在の財務環境の改善を図った上で検討していくと回答。
- ④将来的に山岳とSCの分離独立はあるかについて(埼玉県山岳SC協会)
現状維持や分離すべきなど各種の意見がある中、現時点では財政状況が厳しく、まずこの改善を図っていくことが第一で、その過程において分離独立を含め様々なことを検討していくと回答。
- ⑤夏山リーダーやJSPO公認指導員(コーチ)制度に関する意見について(大阪府山岳連盟)
夏山リーダーは全登山者が対象、JSPO公認コーチはJMCSA傘下団体所属者が対

象、という点が異なる。また夏山リーダーは安全に登れるリーダーを育成、コーチは指導者であるという違いがあることを踏まえ、位置づけを明確にしていくと回答。これに関連して愛知県山岳SC協会より、これまでリーダー養成に力をいれてきたが、一般登山者個人に焦点を当て検定のような仕組みがあればよいのではないかと、この発言があった。

- (9)各岳連からの現状報告について
本件については、現在フォームによる意見収集を行っており、それが取りまとまったところで共有することとし、それ以外での報告を求めたところ次のとおり発言があった。
ア)北日本でJMCSAの主要SC大会の開催を数年に1度は実施して欲しい。(岩手県山岳SC協会)
イ)年間予定表をわかりやすくしてほしい。(愛知県山岳SC協会)
ウ)全日本登山大会の継続に賛成でJMCSA 3役は参加し地方の声を聞いても

らいたい。今会議資料の配布を早くしてもらいたい。(兵庫県山岳連盟)
エ)安定した財源の確保が難しい。廣川副会長から使いやすい補助金を提示していただいた。今年は創立60周年記念(11/28)で、JMCSA会長の招待を予定。(鳥取県山岳SC協会)

- (10)諸般の連絡事項
熊問題について、本年3月に行われる新潟県山岳協会の取り組みを紹介した。

4. その他
今オリンピック大会でのSKIMO競技のテレビ放映予定と、今後もオリンピック競技として残るかは、オリンピック後に発表される旨が報告された。

5. 閉会
畑中副会長が、SC部の現状を説明しつつ、全国理事長会議の閉会を宣言した。

以上
令和8年2月8日(日) 赤尾 浩一



令和7年度 第12回
ハイブリッド開催定時理事会報告

日時：令和8年2月12日(木)
13時~16時30分
場所：JSOSビル3F 会議室5及びZoom
出席者：
【理事】町田幸男、廣川健太郎、畑中渉、望月啓治、赤尾浩一、小田部拓、(欠席)石井昭彦、吉田春彦、中橋沙羅、星一男、石田英行、武田豊明、原勇人、下村真一、蛭田伸一、野村善弥、古賀英年、前田善彦、安井博志、小高令子、栗田季慎子(第6号議案から参加)、中島隆之、(欠席)平田伸也、奥井健吾(第6号議案から退席)、藤江理枝、(欠席)西原斗司男
理事出席者23名、欠席者3名
【監事】古屋寿隆、佐久間務
監事出席者2名

- 1. 開会**
2. 会長挨拶
過日、BJCが無事終了し、この土日に佐賀県でSJCを開催する。SKIMO競技では、明日から富山県宇奈月で日本選手権を開催するが、ミラノコルティナ冬季オリンピックは2月19日と21日に同競技のテレビ放映が予定されているのでご覧いただきたい。本日も円滑な議事進行をお願いします。
- 3. 議事成立状況報告**
理事数 26名中23名出席(通し出席21名 途中入・退席2名)
監事数 2名中2名出席
(定款第33条、定足数=14名(過半数以上))
- 4. 議長選出**
会長が議長をつとめる(定款第32条)
- 5. 議事録署名人**
会長及び監事(定款第34条)
- 6. 議題**
議案第1号 前回理事会議事録の承認について
すでに、内容の確認は完了しており以下

のとおり承認された。
棄権0名、反対0名、賛成21名
議案第2号 公認申請のあったSC大会の承認について

望月専務理事が配布済資料を基に、公認申請のあった「母恵夢カップ第6回スピードスターズ選手権大会」、「第6回千葉カップスピード競技」の大会について説明し、SC普及委員会が審査済であることを補足し、以下のように承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名
議案第3号 UIAAの4委員会への委員候補の推薦について

望月専務理事が配布済資料を基に、前回理事会において小高令子氏がMountain Protection、溝手康史氏がLegal Affair、青山千彰氏がTrainingの3名を各委員へ推薦することを決定したことに加え、今般新たにUIAAからYouth Commissionへの委員候補推薦の要請があり、UIAA委員会で審議した結果、前田善彦氏を推薦する案が示されたことを説明した。また、4名を推薦する必要書類が全て揃ったことを説明し、これらを踏まえ審議したところ以下のように承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名
議案第4号 国スポリッド競技における2ルートでの実施方法について

原理事が配布済資料を基に国スポ委員会で検討した案を説明した。本来4ルートで実施する競技を何とか2ルート実施するよう収める場合、①競技時間が9時間以上となること、②種別ごとのルートで競技すべきところをルートセットの時間がないため別の種別が使い回すことになること、という制約について説明し、審議したところ以下のように承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名
議案第5号 SKIMO2026-27強化選手選考規定及び海外大会派遣選手選考規定の変更について

小田部理事が配布資料を基に次のシーズンからユースワールドカップがはじまりU18(18歳以下)の年代を分ける必要がある

ことを説明し、以下のように承認された。
棄権0名、反対0名、賛成22名
議案第6号 WCPワールドカップ2027について

畑中副会長(SC部長)が、2027年4月に東京においてボルダーワールドカップの開催案があることを説明した。本大会は、IFSCとIFSCが関係するS社が幹事となる実行委員会が主催となり、JMCSAは主管となる枠組みであり、赤字となった場合の財務リスクはJMCSAにはないこと、開催する前提の補助金申請や会場確保については、JMCSAが実施する必要があることなどを説明した。これらを踏まえ、補助金申請等の行為をして良いか承認を求めたところ以下のように承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名
議案第7号 2026年度「JOC国際人養成アカデミー」受講者の募集について

望月専務理事が配布済資料を基に説明した。当プログラムの趣旨や内容に関する説明会が2月13日にあり赤尾事務局長が参加の上、SCやSKIMOの関係者へ伝達したのち対応を検討することになった。(連絡事項として処理)

議案第8号 主要スポーツライミング競技プロデューサーの公募について

望月専務理事が、本年6月から来年5月までのBJC等SC主要8大会の開催及び準備を行う事業統括者(プロデューサー)の公募要領案を説明した。応募者がJMCSAの委員会に属している場合など利益相反の恐れに関しては、書類審査を踏まえ次回以降の理事会で審議することとし、速やかに募集の開始について諮ったところ以下のように承認された。

棄権0名、反対0名、賛成22名
7. 報告

報告第1号 1月末時点の収支・キャッシュフローの状況及び令和7年度収支決算の見通しについて
望月専務理事が、配布済資料を基に説明した。1月度の支出減、4,5月までの支払い延長、BJC入場料の収入増により、3月末の

資金繰りがやや楽になったが、収支については楽観視できないことを報告した。

報告第2号 SCコーチの認定について

望月専務理事が常務理事会で以下のとおり承認されたことを報告した。

- * 沖縄会場 コーチ18名受講。合格8名
 - ①井田 浩彰②瀧田 楓③田中 なぎさ
 - ④牧志 友介⑤金城 和幸⑥儀間 太輔
 - ⑦新城 昌輝⑧市来 由樹子

報告第3号 ACコーチ1及び2、夏山リーダーの認定について

望月専務理事が常務理事会で以下のとおり承認されたことを報告した。

- * 夏山リーダー 神奈川県山岳連盟
 - ①福島 浩二②高島 正徳③原 理佐④高橋 潤一⑤佐野 慶枝⑥山口 太郎⑦鈴木 芳枝
 - ⑧仁藤 安久⑨曾我 豪仁⑩細田 剛⑪奥田 綾香
- * コーチ2 JMSCA 登山部 指導委員会
 - ①船戸 亜紀(埼玉)②神保 敦子(長野)③高岡 俊英(千葉)④菊地 仁美(東京)
 - ⑤益戸 隆二(滋賀)

- * コーチ1 岩手県山岳・スポーツクライミング協会
 - ①浅沼 省三②鎌田 篤
- * コーチ1 福島県山岳・スポーツクライミング連盟
 - ①比佐 一枝②工藤 慎大③根本 誠司
 - ④三浦 幸浩

- * コーチ1 大阪府山岳連盟
 - ①荻田 進一②大辻 直史③須田 由紀子
- * コーチ1 広島県山岳・スポーツクライミング連盟
 - ①大下 真弓②高橋 和仁③細田 悦朗
 - ④米原 啓太

- * コーチ1 東京都山岳連盟
 - ①小野 学②鹿内 亮子③中嶋 あきみ
 - ④三田 英樹⑤八重樫 崇⑥山本 宣仁
 - ⑦河合 千鶴子⑧鋳物 美佳

報告第4号 後援名義使用承認について

望月専務理事が配布済資料を基に、「第52回大阪府チャレンジ登山大会」、「パラクライミング体験会」の2件について、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第5号 海外登山奨励金(後期)選考の承認について

廣川副会長(登山部長)が4隊の申請のうち、次の3隊が選考された経緯を説明し、常務理事会で承認されたことを報告した。

- ・【パキスタン・Giri Giri-Boys K7 Expedition 2026隊】

目的：チャラクサ谷 K7 主峰南西稜から未踏の 中央峰への継続登攀を狙う。
- ・【パキスタン・Giri Giri BOYS KOZ SAR EXPEDITION 2026隊】

目的：Koz Sar 南壁の未登のビックウォール初登攀と山頂を狙う。
- ・【Kyrgyzstan・Mt Parus 遠征隊2026】

目的：登攀記録も少なく、日本人もほとんど訪れたことのないキルギスのAk-su, Kara-su, Ashatの3溪谷を訪れ、新ルートのビックウォール開拓を行い、エリアの細かい情報を持ち帰る。成功すれば世界的な成果となり、日本人クライマーへの還元につながる。

報告第6号 インド山岳連盟からSC選手の招へい依頼への対応について

望月専務理事が、インド山岳連盟から日本で短期のSC強化練習を希望する6名の身分保証書が発行され、JMSCA指定の様式に必要な事項が記入されてきたため、Invitation Letterの発行を常務理事会が承認したことを報告した。

報告第7号 委員長の交代について(登山部国際AC委員会、SC部強化委員会)

望月専務理事が、新たな登山部国際AC委員長として鈴木百合子氏が、またSC強化委員長として佐藤豊氏が本年2月から就任することについて、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第8号 選手強化スタッフへのコーポレートカード発行について

望月専務理事が、配布資料を基に、SC強化委員会から4名のコーポレートカード発行申請が出ていること、使用限度金額について、別途SC強化委員会と事務局で調整することを前提に、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第9号 3月8日世界国際女性デーに関連した寄附について

望月専務理事が配布資料を基に、あるスポーツ用品メーカーが実施するクライミングイベントで募る募金(15万円程度)の寄附の申し出があり、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第10号 業務執行理事による業務執行報告について

一部資料に不揃いがあり、速やかに揃えて閲覧に供することとした。

報告第11号 事務局と委員会との業務分担について

望月専務理事が、事務局からSC技術委員会へ業務分担の相談をした内容について、技術委員会からの返答とその後の経緯を説明した。畑中副会長、奥井理事が対応することになった。

報告第12号 オリンピック等国際競技大会出場資格管理について

望月専務理事がJOCから発せられた注意喚起の文書について説明した。

報告第13号 第20回アジア競技大会(名古屋)の準備進捗等について

望月専務理事が、2月6日にJOCが開催した会議において準備進捗に懸念があることの報告をした。星理事から今後も理事会において進捗管理を取り上げてもらいたい

旨の申し出があった。

報告第14号 第6回アジアビーチゲームズ2026への選手派遣について

望月専務理事が配布資料をもとに、本年4月に中国で開催されるアジアビーチゲームズにSC選手8名と、コーチ2名、トレーナー1名を派遣することについて、常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第15号 TOKYOジュニアスポーツアンパサダーについて

望月専務理事が、都岳連からの要請でJMSCAとして推薦する4名の選手について常務理事会で承認されたことを報告した。

報告第16号 今後の役員派遣ほか渉外等について(2月後半~3月)

資料を基に望月専務理事が報告した。

8. その他

- ・事業実績報告書及び事業計画書の記載形式について

望月専務理事が、今後、委員会毎、事業毎に羅列する形式とし、予算との照合がしやすいように変更したい旨説明した。
- ・規程類の整理について

廣川副会長から今後実施していく旨の説明をした。
- ・2025年度全日本オリエンテーリング選手権大会における遭難死亡事故報告書委員として参加した町田会長から報告があった。

以上
令和8年2月12日(木) 赤尾浩一



寄贈図書

(一社)愛知県山岳・スポーツクライミング連盟「愛知岳連ニュース」第459号	会報	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」3月号 No.945	情報誌
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第704号	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2026年3月号	情報誌
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.574	(株)オービックビジネスコンサルタント	奉行EXPRESS 2026WINTER	情報誌
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2026冬号 (No.590)	おいらく山岳会	「山行手帖」No. 795	会報
日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.515	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.66	会報

「かすみちゃんのハイキング日記」



表紙のこぼれ



土庄港から望む皇踏山

小豆島の玄関「土庄港」に到着すると、2つの頂が双耳峰を形成している山塊が目に見え込んできます。皇踏山(おうとざん 標高394m)です。山頂は平坦な溶岩台地(メサ)の北端にあり、瀬戸内海国立公園の特別地域に指定されています。また、(公財)日本離島センター選定の「しま山100選」にも選ばれています。展望台から眺めると世界で最も狭い海峡である「土淵海峡」や「エンジェルロード」、多島美の瀬戸内海が広がり、天気良ければ徳島県の剣山を見ることができます。

香川県山岳・スポーツクライミング連盟
指導委員長 武川秀樹

編集後記

ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが閉幕しました。どの競技も見応えがあり、世界の頂点を目指して挑む選手たちの姿に大きな感動を覚えました。中でも新種目のSKIMO(スキーモ)は、皆さんご覧になりましたか。雪山の急斜面を登り、スキーを担ぎ、そして一気に滑り降りる——その一連の動きは力強くも美しく、まさに「雪山を縦横無尽に駆け抜ける山岳競技」。大変見応えがありました。今回は日本人選手の出場は叶いませんでしたが、4年後には日本勢がこの舞台上で躍動する姿をぜひ見たいと、今から大いに期待しています。(松本光顕)

登山月報 第684号

定価 110円(送料別)
 予約年間 3,000円(送料共)
 (毎月1回15日発行)
 発行日 令和8年3月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 905
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

「山岳雑誌」山と人、時代をつなぐ **岳人** 4月号

特別編集 春山 2026

テーマで楽しむ春の山

モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて販売中!

価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトクです!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用!

限定デザイン

岳人カード

全国2,300ヵ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2024年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2025年6月19日)

発生件数	2,946 件 (前年対比 180件減)
遭難者数	3,357 人 (前年対比 221人減)
死者・行方不明者	300 人 (前年対比 35人減)

JMSCA 2025年版
日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.jp)

